



第7回(通算第19回)通常総会議案書

日 時 : 2011年5月28日(土)

10:30~14:00

場 所 : 藤沢産業センター

## 総 会 次 第

1. 開 会

2. 理事長挨拶

3. 来賓挨拶

4. 議長選出

5. 資格審査

6. 議事審議

第1号議案 事業報告

第2号議案 決算報告および監査報告

第3号議案 事業計画

第4号議案 事業予算

第5号議案 定款の改訂

第6号議案 借入金について

7. 閉 会

## はじめに

3月11日未曾有の大震災が東日本を襲い、一瞬にして多くの営みが失われてしまいました。原発による放射能に怯え天災と人災を一度に受けたその悲惨さは私たちの想像を遥かに超えていました。ただ一つ明るく思えるのは、明日に向かって進もうと日本中が一つに繋がりに歩み始めている事です。私たちも最大限の貢献をしなければなりません。

自分らしく生きるため、自分たちの福祉は自分たちで作ろうと「市民参加型福祉」を実践してその活動も今年度は20周年記念式典を迎えるまでになりました。この間様々な事がありましたが、特筆すべき第一は2000年に介護の社会化を旗印にした介護保険制度の導入でした。当初は一定の目的を達したかに見えましたが、財源不足がより深刻になり3度の見直しで利用量の制限とも云える事態が起りつつあります。これから超高齢社会を迎えるにあたり、皆で知恵を出し合い取り組む必要があります。第二は2007年に『ぐるーぷ藤一番館・藤が岡』を建設した事です。この複合型福祉マンションは私たちの夢の結晶で、住まい方も運営方法も他に類を見ないとマスコミを通じて大評判になりました。

そして今年度いよいよ『ぐるーぷ藤二番館』に取り組めます。ここを第二の拠点として、在宅生活を支えることを中心に置きながらご利用者とその家族への支援についてきめ細かいサービスを提案していきます。

## 第1号議案

### 2010年度事業報告

#### 1. 組織運営

設立から19年目、福祉マンション「ぐるーぷ藤一番館・藤が岡」を開設してから4年目の今年は、地元藤が岡の地になじみ、根づく活動ができました。大勢いる地元のスタッフのさまざまなご縁から、どんぐり園はじめ地元自治会・学童保育・中学校などとの交流が頻繁に行われ、休日にはスタッフの子どもたちがボランティアとして来館するなどユニークな活動もありました。

今年度は、ホームヘルプを対人援助の基本と捉え、各部門のスタッフが在宅支援を経験することを方針として掲げました。その結果多くのメンバーが部門を越えて活躍しています。今年度計画していた2級ヘルパー研修を開催することはできませんでしたが、スキルアップ研修を実施することによりヘルパー・スタッフのスキルの向上を図りました。

また、内閣府からの委託により、社会的企業を育成し、地域社会における雇用の創出を目的とした事業を担うiSB公共未来塾の講師を務め、その一環としてインターンシップ生8名を受け入れました。実習受け入れ先として一番館有料ホーム・しがらきの湯・藤が岡の家・デイハウス藤の花・デイハウス菜の花で各事業部門1名につき2日ずつの実習を行いました。個性的なインターンシップ生の受け入れには苦労も多くありましたが、可能な限り本人たちの希望にそったプログラムを設定しました。8名を2ヶ月にわたって受け入れた経験はスタッフのスキルアップにもつながりました。

運営については、年4回の理事会で予算を始め事業運営に関する重要事項の検討を行い、必要に応じて開催した代表者会議で随時新たな課題についての検討を重ねました。内部理事及び各事業部門の代表で構成された運営会議を月1回開催し、理事会での決議を踏まえて各事業に関する諸事項の討議を行いました。月1回の運営報告会で全会員に対して運営状況の報告を行ないました。部門ごとに会議や担当者ミーティングを随時持ち、それぞれの課題を解決し情報を共有するとともに研修の場となるように努めました。また部門の枠をこえた委員会活動やプロジェクトは、さまざまな形で会員が運営に参加する機会になりました。

#### 2. 事業活動部門

「ぐるーぷ藤一番館・藤が岡」を拠点として地域に根ざした様々な活動ができました。ご利用者や地域のニーズによりきめ細かく対応するために念願の訪問看護事業を再開させることができ8つの事業部門を展開しました。

レストラン「オハナ」はぐるーぷ藤の応接間としての役割はもちろんのこと、

藤のシンボルとしておもてなしの心を持ったゆっくりとくつろげるつどいの場として定着しました。

## 2-1 訪問介護事業（ホームヘルプ）

利用者に寄り添い、その方らしく暮らしていただけるように、心のこもったホームヘルプで在宅生活を支えるサービスを心がけました。

本来事業では、家族の家事、通常の範囲を超えるこだわりの掃除、送迎に伴う回送等、公的なサービスで対応できないケアの依頼が増えてきました。また終末期に必要とされる見守りのケアは、ご利用者だけでなくご家族の支えにもなりました。

介護保険では、地域包括支援センターから依頼の要支援の方、生活全般に支援の必要な困難なケースの方等の依頼がますます増加し、積極的に対応したことで地域に密着したホームヘルプ事業所として定着しました。またターミナルのケア、重介護のケース依頼も増えてきました。

障がい者自立支援法では、障がい児のケア依頼が多数あり地域のニーズの高さを実感しました。精神障がい者の移動支援に対応する事業所が少ない中、できる限り積極的に受けたことで、行政や相談事業所の信頼を得ることができました。

一昨年より財団法人医療経済研究・社会保険福祉協会主催の介護技術スキルアップ「医療的ケアの研修」を積極的に受講し、今年度は2件の痰の吸引を伴うケアを開始しました。医療的ケアの危険性や法令をよく理解し、医師・看護師の指導を2回以上受けることを内部で規定することで、安全に行えるよう留意しました。24時間痰の吸引を必要としている家族の介護負担を少しでも軽減できるよう第一歩を踏み出せました。

事業所加算を取って2年目を迎えましたが、上記の医療的ケアの研修等、外部の研修への参加、ヘルパー会議での毎月の多様な研修等を充実してホームヘルプ部門全体のスキルアップを行うことができました。この研修実績については9月の自立支援法の実地指導の際に特に評価されました。

## 2-2 通所介護事業（デイハウス藤の花・デイハウス菜の花）

藤の花のカルチャーデイ、認知症対応型デイ、菜の花のサロンデイ、そしてぐるーぷ藤一番館の小規模多機能「しがらきの湯」と相互連携をすることとスタッフのスキルアップにより、ゲスト一人ひとりに合ったきめ細かいサービスを提供できるようになりました。ご本人にとって居心地が良く、ご家族にとっては安心のできるデイサービスの運営に努めました。

### ◇デイハウス藤の花

藤の花は9年目を迎え、通いたい・通わせたいデイサービスになることを目標に「おもてなしの心」を大切にし、60歳代～90歳代までの幅広い年齢層

のゲストに対応しました。最近では60歳代の認知症状のある方の利用依頼が増える傾向にあります。

サービス内容は多岐にわたり、食事・排泄・入浴・整容はもちろん季節感を取り入れ、笑顔になる環境づくりにつとめました。ゲスト一人ひとりに生活リハビリ・上下肢運動・ゲームを取り入れた機能訓練計画を作成し、1ヶ月ごとに見直しを行い3ヶ月ごとに評価することにより、ゲストの心身の機能維持に努めました。

12月に開催した家族懇談会では、福祉用具と日ごろの活動の写真を展示しました。ご家族からは介護者の悩みを共有することができ、また普段なかなか見ることのない父や母の笑顔の写真を見ることができましたと感謝の言葉をいただきました。

#### ◇デイハウス菜の花

昨年度充実させたアクティビティが定着し、商店街への買物や健康体操など大変好評でした。今年度はスタッフ全員でゲストの個性を考慮したアクティビティ計画を作成し、さらにその計画にゲストの意見・要望を取り入れ、歩行訓練の内容や工作・手芸の内容など個別に対応し今まで以上に一人ひとりに細かいサービスを行うことが出来ました。

見学者対応として、ゲストと一緒に一日を過ごす体験利用を始めました。「菜の花」のサービスを体感していただくことができ、利用につながる割合が高くなりました。地域包括支援センターからの問い合わせも増えました。

変化するゲストのニーズに対応し、「デイハウス藤の花」と連携することができました。

### 2-3 居宅介護支援事業（ケアマネジメント）

地域の高齢の方々がその人らしく暮らしていくため、求められるニーズに即したケアプラン作成に努め、常に適格なサービスが実施されるように、モニタリング、再アセスメント、プランの見直しを行いました。ターミナルの利用者はご本人やご家族の思いに耳を傾け、医療との連携を密にしながら迅速に対応し、緊急時についても安心していただけるように支援しました。利用者、ご家族の相談に対して小規模多機能や各施設についてわかりやすく説明し、引継ぎ等もきめ細かく対応しました。

認知症高齢者の問題は独居でもご家族がいても困難な状況が多く、その人らしく暮らしていくための最適なサービスがなかなか見つからない等の課題を残しました。

月1回のケアマネ会議では困難事例や新規の事例について検討し、適切なケアマネジメントが行われているかを話し合いました。藤が岡・弥勒寺地区の方々からの相談は優先的に受け、地域包括支援センターや民生委員とも連携を図り、地域の福祉コーディネーターとしての役割を果たしました。

#### 2-4 小規模多機能型居宅介護（しがらきの湯）

「通い」「泊まり」「訪問」を組み合わせ、ご利用者・ご家族にとって柔軟な対応で住み慣れた自宅での生活の継続を支援しました。在宅を望まれる方の最期の砦としてご家族からの利用の問い合わせや介護についての相談も数多くありました。また地域の方の認知症への理解を深めるために「認知症サポーター養成講座」を主催して介護の発信源の役割も担いました。

お祭りやふれあい喫茶等地元自治会活動への参加、中学校の職場体験実習への協力、幼児教室どんぐり園との季節の行事交流や、ボランティアの方の和楽器演奏、ピアノコンサート、男声合唱、フラダンス、ハモニカレク、太極拳等で日々の生活が大変充実しました。料理レクでは見事な包丁捌きを披露したり、おにぎりを作ってピクニックに出かけたり等生活リハビリを実践しました。

運営推進会議ではご家族・自治会長・民生委員・地域包括支援センター・介護保険課と地域高齢者への対応の話し合いを持ち、地域密着型小規模多機能の良さを理解していただきました。防災等の情報交換など有意義な話し合いを持つことができました。

「第三者評価」では、例を見ない地域交流の多さ、充実したスタッフ研修等が高い評価を受けました。

#### 2-5 訪問看護

休止していた訪問看護ステーションを7月に再開しました。年度途中からということもあり研修中心の活動となりました。内容としては再開に必要とされている管理者の研修、パーキンソンや癌などの最新の研修、また看取りやターミナルケア、褥瘡などの処置や看護技術などの研修を受けました。

ご利用者に対して丁寧でより細やかな対応を目指し、ニーズの高かった24時間対応については前向きに検討を重ねました。

#### 2-6 精神障がいグループホーム（藤が岡の家）

複合施設の中にあるグループホームとして、世話人を中心に看護師や他部門のスタッフ、入居している高齢者の方、地域の方との自然な交流ができるようになってきました。

地域のお祭りにはゲーム出店が定着し、入居者も楽しみながら参加することができました。またグループホームでの暮らしが安定したことで自分から市外まで買い物や外出を行うなど、主体的な社会参加の余裕が出てきました。恒例の月1回の食事会には毎回ボランティアすみれから複数の参加を得て、変化のある生活の一場面をつくることができました。また地域の作業所やボランティア組織、市の職員、医師などの専門機関と連携をとり、グループホームからアパートでの一人暮らしの夢を実現できるよう支援を始めています。

藤が岡の家開所から3年が経ちましたが今年度も全国各地からの問い合わせ

や見学者が多数あり、他のグループホームと異なった藤が岡の家の運営方法は各所から注目されています。

## 2-7 高齢者住宅（一番館）

一番館は「終の棲家」としての役割を担い、一年を通して健康で充実した日常生活を送って頂くことができました。

運営懇談会、ご家族の訪問時、毎月の手紙等を通して日常の様子を報告し、ご本人やご家族の要望をお聞きするなどコミュニケーションを図るよう努めました。お住まいの方にその人らしく暮らしていただくために「おもてなしの心」を大切にし3つの環境づくりに努めました。

### ① 「安心できる環境づくり」

健康診断や訪問診療を通し主治医とのコミュニケーションを密にし、ご本人やご家族の意思を尊重しケアを行いました。内・外部のケアマネジャーのプラン作成によるデイサービスやホームヘルプなどの介護保険サービスの利用を支援しました。

### ② 「笑顔のある環境づくり」

お住まいの方が3・4階のそれぞれのリビングに集うきっかけづくりをしています。おやつ作りやお習字を通して、会話と笑顔が途切れる事のないよう配慮しました。

### ③ 「楽しみのある環境づくり」

自由な生活を支援するとともに、年間行事を組みスタッフと一緒に外出・外食を楽しみ季節感を肌で感じていただいています。春にお花見、田谷の足湯、新年に寒川神社へ初詣に行き好評でした。

## 2-8 厨房及びレストラン（オハナ）

厨房では、一番館にお住まいの方々やしがらきの湯を利用されている方々に配慮し、やわらか食ミキサー食などを提供しました。急な体調の変化や様々な要望にも迅速に対応しました。四季折々の特別メニューも大変好評でした。

また片付けチェック表等を作成し、それに基づき火元・戸締り等の点検を実行することにより、スタッフの衛生・防災管理に対する意識を高めました。

レストラン「オハナ」では小さなお子様を連れたお母様方等新しいお客様も増えました。地域イベント用のお弁当を多く注文いただきました。安全で美味しい食事を提供し、地域の交流の場、癒しの場としての役割も定着しました。

そしてお総菜はスタッフやその家族の食卓も支えることができました。

## 2-9 総合相談窓口

総合相談窓口では看護師・介護福祉士・社会福祉士・精神保健福祉士・ケアマネジャー等が常駐し、福祉・医療に関するあらゆる相談に24時間体制で応



じました。有料ホームへの入居希望の方には予約登録をしていただきました。また精神障がい者の入居希望の相談は近隣のみならず遠く東北地方や北関東からも多くあり、メディアの影響の大きさを実感しました。在宅の引きこもりの相談など深刻な内容も多く、ぐる一ふ藤の活動への関心の高さを感じました。

近所の方の通報により豪雨の夜、急坂で立ち往生していた電動車椅子の方をリフト車で駆けつけ助け出しました。19年の経験を生かし福祉の駆け込み寺として役割を果たすことができました。

また権利擁護の観点に立ち、弁護士・民生委員・地域包括支援センター等に橋渡しをする「NPO版地域包括支援センター」の役割を担いました。税理士による税務相談にも応じてきました。

### 3. 管理部門

ぐる一ふ藤総体の事務局として管理運営に責任をもち、効率的に業務を遂行できるよう努めました。各部門からの請求業務、官公庁への各種届出、他団体や業者との折衝を確実に遂行しました。予算の執行にあたっては、無駄を省き経費節減に努めました。各部門の業務が円滑に遂行できるよう縁の下の力持ちの役割を果たしました。

火災・震災等の予防及び安全確保のため、消防計画に基づき藤沢南消防署立会いのもと館内の消防用設備を実際に使いながら防災訓練を行いました。2月の消防立ち入り検査では指摘事項もなくすぐれた防災対策と評価され、12月には藤沢市消防本部より救急セーフティステーションの指定を受けました。

事業の拡大によって増加する個人情報の保護には一層配慮し、特にデジタルデータの管理は強化しました。

また将来の一番館修繕に備え修繕積立の準備を始めました。

#### 3-1 会員（メンバー）と福利厚生

今年度も募集をしない中でメンバーの紹介により、福祉のまちづくりという理念に賛同する仲間が13名増えました。一方で会員として名前を残しているものの活動を長期間休止している会員に対して継続の意思確認を行い、現在会員は142名となりました。

それぞれのメンバーの資格や能力を生かして皆が生き生きと働ける多様な職場づくりをめざし自己実現の場をつくりました。今年度から有給休暇の取得を奨励するためにメンバーそれぞれに取得可能日数を通知しました。その結果対象者（110名）の65%強のメンバーが有給休暇を取得し、福利厚生の充実に努めました。この制度の確立により計画的に休暇を取得するために勤務調整を自らするなどスタッフ同士の信頼感、おたがい様の気持ちがさらに高まりました。

また長年の夢であった退職功労金については様々な働き方があるためそれに応じた制度の検討を重ね、積み立てを始めました。

恒例の交流会では6月は中華料理を堪能し、10月にはとバスツアーを楽しみ、3月にはボーリング大会で盛り上がりました。一番館で行った新年会は厨房手作りの料理を満喫し、ゲームなどで多くの会員の交流を図りました。

福祉関連有資格者（2011年3月現在・重複あり）

ホームヘルパー	1級：	3名
	2級：	100名
介護福祉士		43名
看護師		4名
ケアマネジャー		8名
精神保健福祉士		2名
社会福祉士		2名
社会福祉主事		1名
福祉住環境コーディネーター2級		1名
認知症ケア専門士		2名
学習療法士1級		1名
管理栄養士		1名
栄養士		3名
調理師		7名
鍼灸マッサージ師		1名
理・美容師		2名
キャラバンメイト		2名
普通救命講習I終了者		46名

### 3-2 広報活動

年4回発行している広報誌「花どけい」は毎号特集記事を組み、ご利用者やご家族の寄稿もいただくなど内容の充実を図りました。発行部数も増え毎号1500部を地域に配布しています。見学者や相談者には資料として活用し広報の役割を果たしています。

今年度もぐる一ふ藤の活動が各種メディアに取り上げられました。週刊誌や月刊誌に紹介され、特にNHKラジオで2回放送された後は問い合わせの電話が全国から多数寄せられました。入居希望、見学希望の方だけではなく新しい事業モデルとしてアドバイスを求める方、NPOの成功例を学びたい方、大学等で研究対象としている方、行政視察など目的も様々でした。複合施設というハード面だけではなく、スタッフの働き方、研修の回数と内容、部門間の連携も注目されました。

また関東近県だけではなく、札幌、福島、名古屋、京都など各地から藤の理念や活動などを大学生や市民に直接話してほしいとの講演依頼や国や市など行政からの依頼も増えました。

見学希望に対してはお住まいの方のプライバシー保護を考慮し、月1回に制限させていただいており、現在2012年秋まで予約が入っています。

### 3-3 諸団体での役割

- ・ 市民福祉団体全国協議会 常務理事
- ・ 藤沢市個人情報保護制度運営審議会 委員
- ・ 藤沢市小規模多機能型居宅介護事業所連絡会 副会長
- ・ 神奈川県小規模多機能型居宅介護事業所連絡会 幹事
- ・ NPO法人ふじさわNPO連絡会 理事
- ・ NPO法人昴の会 理事

## 4. 評価プロジェクト

第2期3か年計画3年目となる今年度は、6年間にわたる評価プロジェクトのまとめの年となりました。当初各年代、各部門から集まった評価プロジェクトメンバーは6年間で延べ54名を数え、大きく変化する藤の働き方に対応する評価システムを構築しました。

今年度は自己評価シートについて最終的な見直しを行い、12職種のDBU(Dialog for Brush Up)・自己評価シートを完成しました。評価項目に藤の特徴である数多い会議、研修の参加状況を数量化して入れたことで評価の客観性を増すとともに、会議・研修への出席を促す効果が得られました。互いに頑張り認め合い、目標をもって業務に取り組むことを目的に125名がDBUおよび面談を行いました。また評価を行うことに相互に慣れてきたことで市民業らしい評価点を出すことができ、DBUを用いた前年度評価を夏と冬の2回の賞与に反映させることは定着してきました。

最低賃金が年々上昇していくなかさまざまな年代の方に働き続けてもらえるシステムを作る必要性から、定年後の働き方について調査・検討を重ね、基準を設けることが出来ました。移行期間を設けたうえで2012年度からの実施を予定しています。メンバー誰もが納得のできる働くシステムを創ることができました。

今年度で評価プロジェクトは一区切りをつけますが、それぞれの職種、経験、資格に応じた藤らしい時給設定のシステムができたことは大きな成果です。

## 5. 研修プロジェクト

利用者の多様なニーズにきめ細かく対応するためにはメンバー一人ひとりのスキルアップは不可欠です。今年度も新人研修から始まり中級・上級・トップリーダー研修と様々な場面で研修を行いました。また業務シフトを調整するなど研修に参加しやすい環境作りに努めました。

理念の共有と継承のため、入会年度別にメンバーを分け年間5回にわたり「理

事長と語る会」を開催しました。理念の理解を深める取り組みとして新たにパワーポイントを導入しぐる一ふ藤の成り立ちを学び、オハナのお弁当を食べながら理念の共有を図り、今後のビジョンについて語り合いました。

運営報告会では、倫理、接遇、法令遵守等を学びぐる一ふ藤のメンバーとしての品格向上に努めました。毎年恒例になった竹内佐智恵先生による介護講座ではボディーメカニクスを活かした介護技術を学び、木村千尋先生に色彩心理学による心の癒しを学びました。また外部団体とコラボ研修を企画したり、公開医療講座として内田充先生を招いて地域の方々と腰痛の原因や治し方を共に学びました。

今年度は8回のスキルアップ研修を行い「介護の基本のき」を確認しさらに介護のコツを習得しました。延べ228人のメンバーの参加がありました。

各部門では、部門別年間研修計画にのっとり毎月1回の研修を行いました。トップリーダー研修における今年度の海外研修には、市民福祉団体全国協議会主催のドイツ・オランダ福祉研修に3名参加し、認知症ケアの考え方の違いや、成年後見制度について学びました。

きめ細かな研修プログラムが実行出来た事を誇りに思います。

## 6. 20周年実行委員会

来年度20周年を迎えるにあたり、記念行事を検討する委員会を設置しました。各セクションより藤のキャリアも様々な9名の会員が集まり、4回の委員会を開催しました。記念式典や講演、パーティや記念誌の概要を決めました。今後20周年記念誌の発行に際し花どけい編集委員の協力を得て、新たな実行委員も加え詳細を決めていきます。

## 7. その他の活動

幼児教室どんぐり園、コンフォール藤沢自治会、ボランティアすみれ及び他団体と連携しながら地域に根ざした活動を行いました。今年度も地域で地道な活動をするNPOや障がい者団体等に「まちづくり対策費」を活用しそれぞれの活動を支援してきました。また藤沢市の諸団体の委員、市民福祉団体全国協議会等での活動を通じて介護保険はじめ福祉に関して市民の立場に立った提案をしてきました。さらに各種講師等の機会を通して、ぐる一ふ藤の活動を広く紹介するとともに啓発活動を行ってきました。

3月11日の東日本大震災の被災者に対しメンバー、ご利用者、ご家族などからカンパを募り、NPO法人市民福祉団体全国協議会を通じ被災地に届けました。

◇講師

- ・ 06/18 「あなたも乗り越えられる老後のハプニング」  
(栄区役所・区民プロデュース事業)
- ・ 06/20 札幌エコ&ナチュラル・フェスタ (札幌市)
- ・ 06/21 「地域連携と都市再生」(横浜国立大学)
- ・ 07/03 事業型NPO育成支援講座 (名古屋市)
- ・ 07/29, 08/05 iSB公共未来塾 (横浜市)
- ・ 09/16 年相応の老いの旅支度を考えませんか」(葛飾区)
- ・ 10/02 第12回ユニットケア全国セミナー (名古屋市)
- ・ 11/04 慶応大学大学院 金子ゼミ
- ・ 11/12 「コミュニティワークの実践」(生活クラブ運動グループ)
- ・ 11/28 「福祉のまちづくり講演会」(会津若松市)
- ・ 11/30 「コミュニティビジネスマイスター講座」(市民活動推進センター)
- ・ 12/06 「ボランティアの心がまえ」 (湘南高齢期ネットワーク)
- ・ 01/20 「住民協働による住まいづくりとまちづくり」(生活福祉研究機構)
- ・ 03/06 「高齢者の住まい方と協働型サービスの展開」(同志社大学)
- ・ 03/11 「サービスの質を高めるために」(市民福祉団体全国協議会伊香保研修)

◇パネリスト

- ・ 7/10 社会的企業育成支援事業シンポジウム

◇取材、見学等

- ・ 取 材：10件 カタログハウス、法研、(財)未来工学研究所他
- ・ 見 学：29件 125名
- ・ ラジオ放送：NHKラジオ (6/29、7/13)
- ・ 広告掲載：藤沢市市制70周年記念番組テレビ神奈川広告掲載
- ・ 雑誌掲載：サンデー毎日、日経ビジネス、いきいき、通販生活  
ふれあいの輪、月刊介護保険 (8月号、9月号)、BonVivant

2010年度 全体研修・部門別研修

		日 時	名 称	
全 体 研 修		通年	新入会研修	
		4月10日	就業規則について	
		6月12日	プライバシー保護についての取り組み	
		7月3日	公開医療講座「腰痛の原因と治し方」	
		7月18日	第18回竹内先生介護講座「安全で安楽な介護技術について」	
		8月11日	せっけん講座「コネコネせっけん作り」	
		8月14日	倫理規定・法令遵守について	
		9/15 10/13 11/17 12/16 2/16	理事長と語る会	
		9月25日	認知症サポーター養成研修	
		10月9日	接遇の大切さについて	
		10月28日～12月14日（8回）	スキルアップ研修	
		11月6日	木村先生講座「介護に活かそう色彩心理」	
		11月14日	法令遵守とプライバシー保護の取り組み	
		3月3日, 5日	介護福祉士国家試験実技対策講座	
リ ー ダ ー		6月4日	市民福祉団体全国協議会講演会	
		10月2日	ユニットケア全国セミナー	
		10月17日～24日	ドイツ・オランダ福祉研修	
		2月11日	あべともこと歩む会「樋口恵子講演会」	
		3月11日	市民福祉団体全国協議会一泊研修	
部 門 別 研 修	ホ ー ム ヘ ル プ	4月10日	続・記録書の書き方・老計10より	
		4月30日 11月18日	藤沢市ひとり親家庭日常生活支援事業研修	
		5月8日	ちょっとしたケアの工夫（調理）	
		5月11日, 14日	ぐるーぶ藤ホームヘルプ新人研修	
		6月12日	食中毒・感染症事例検討	
		7/31 8/4, 10	社福協主催「介護技術スキルアップ研修」	
		7月10日	ヒヤリハットの事例検討	
		7月15日	身近な病気『精神障がい』を理解しよう	
		8月14日	こういうときはどうするの？	
		9月11日	緊急時の対応	
		10月9日	インフルエンザ、感染症予防について	
		11月13日	訪問介護事業の自己評価・アンケート結果より	
		12月11日	腰痛予防体操	
		1月8日	ちょっとしたケアの工夫（入浴介助）	
	2月12日	事例検討・ケース会議		
	2月26日	訪問看護と医療的ケア		
	3月12日	ケアマニュアルの読み合わせ		
		藤 が 岡 の 家	6月17日	藤沢一般酒害相談研修会
			7月8日	藤沢市精神保健福祉講座「統合失調症と治療の実際」
			8月28日	藤沢市精神保健福祉講座「怒りのコントロール」
	9月12日		保健所主催「こころサポーター養成講座」	
	10月14日		藤沢市精神保健福祉講座「うつ病と治療の実際」	
	10月20日 3月2日		世話人研修	

		日 時	名 称
部 門 別 研 修	通所介護 藤の花・菜の花	4月10日	介護サービス提供加算の説明と記録の書き方
		5月8日	事故発生等緊急時の対応及び緊急時の連絡体制
		6月12日	食事介助事故・ヒヤリハット事例等事故防止につながる事例報告
		7月10日	排泄入浴介助事故・ヒヤリハット事例等事故防止につながる事例報告
		8月14日	プライバシー保護の取り組み、身体拘束等の排除のための取り組み
		8月31日	介護技術スキルアップ研修
		9月11日	レクリエーションの取り組み方
		10月9日	認知症・認知症ケアについて
		11月8日	ノロウイルス等感染症
		11月13日	ケアマニュアル読み合わせ
		12月11日	ノロウイルス・感染症について、蔓延防止
		1月8日	口腔ケア事故・ヒヤリハット事例等事故防止につながる事例報告
		2月12日	事業所運営について、業務改善、事業所運営の向上等
		3月19日	歩行移動介助事故・ヒヤリハット等の事故防止につながる事例報告
		6月26日	認知症サポーター養成講座
		一番館・しがらきの湯	4月10日
	4月19日		計画作成担当者情報交換会
	5月8日		神奈川県小規模連絡会研修「リスクマネジメント」
	5月8日		今年度の目標の作成
	5月16日 6月4日		認知症サポーター養成講座
	6月12日		食中毒発生の事例及び予防とまん延の防止、食事介助・事故事例・ヒヤリハット防止の取り組み
	7月10日		非常災害時の対応・事故発生と緊急時の対応について
	8月14日		認知症及び認知症ケアについて プライバシー保護と身体拘束排除の取り組み
	8月23日		介護保険制度について・感染症について
	9月11日		歩行介助・移動介助について、事故防止につながる取り組み
	10月9日		入浴介助・排泄介助について、事故防止につながる取り組み
	10月27日		県小規模連「期待される役割」
	11月8日		保健所主催「ノロウイルス等感染症研修会」
	11月13日		ノロウイルス、感染症発生の事例検討と予防・まん延防止について
	12月11日		非常災害時の対応・事故発生と緊急時の対応について
	12月21, 22日		認知症対応型サービス事業管理者研修
	厨房		1月8日
		2月12日	認知症及び認知症ケアについて事例カンファレンス
2月18, 21, 22日		小規模多機能サービス等計画作成者担当研修	
3月19日		一年の計画目標の振り返りと評価	
6月10日		食品衛生責任者講習会	
	9月3日	盛り付け研修	
	11月5日	野菜の切り方	
	1月7日	つけあわせのつくり方	
	3月4日	ワンプレートのもりつけ方	

		日 時	名 称
部 門 別 研 修	ケア マネ ジ メント	4月1日	嚥下困難な方の服薬方法（ゼリー状オブラートの使用方法）
		4月28日	藤沢市居宅介護支援事業所連絡会主催「口腔ケア」
		5月21日	藤沢市介護保険認定調査員新任研修
		6/17 7/13 8/20 10/20 11/17 1/19 2/15	聖テレジア オープンセミナー
		6月2日	最新の福祉用具 歩行器・車椅子等
		6月29日	訪問入浴のサービスの実際
		8月25日	ケアマネ連絡会「介護保険制度改正の動向等」
		8月31日	医療連携 薬局利用方法と薬の知識
		9月17日	第6地域包括主催「地域ケアマネジャー研修会情報交換会」
		9月28日	住宅改修のポイント（利用者に応じたコーディネート）
		10月5日	ケアマネ連絡会Aグループ主催「成年後見制度」
		10月27日	最新の福祉用具 床ずれ予防用具等
		11月5日	ケアマネ連絡会主催「個人情報保護の重要性」
		12月28日	心理的特徴に応じた係わり方
		2月1日	医療・看護との連携
		2月21日	藤沢市ケアマネ事業所連絡会Bグループ研修
		4/26 6/9 7/20 11/11 1/24 2/22, 26 3/28	施設見学（シニアメゾン、きらら、nagomi、リビング辻堂、 メディカル藤沢、おたがいさん、いどばた、エデンの園）
		訪問 看護	9月25日
	10月23日		県訪看護連絡協議会主催「ターミナルケアを支えるチームケア」
	11月6, 19, 20日		県看護協会主催「看護に関する知識」
	11月26日 12月4日		県訪看護連絡協議会主催「管理者研修」
	12月15日		聖テレジア主催「パーキンソン病・類縁疾患など全般について」
	1月22日		県訪看護連絡協議会主催「管理者リーダーシップ研修」
	1月27日		県保健局「指定事業者新規セミナー」
	2月5日		県訪看護連絡協議会主催「管理者フォローアップ研修」
	2月15日		聖テレジア主催「褥瘡予防について、地域における訪問看護の役割」
	2月25日		市民病院講演会「緩和ケア」
	2月25日 3月2日		保健所「増加する高齢者の結核に対応する」等
	2月26日		西湘地区訪看護連絡協議会主催「疼痛マニュアル研修」
	事務局	10月21日	新パソコンの検索方法、介舟について
		12月18日	留守番電話の取り扱い、介舟について
		2月17日	介舟からのエクセルで関数を使う
		11月25, 26日 12月7日	甲種防火管理者
2月10日		県「個人情報保護講座」	



# 年 間 活 動 一 覧

2010年4月～2011年3月

月	日	内 部 活 動	日	研 修、学 習	日	外 部 活 動
4月	2	代表者会議 (16・21・30)	19	しがらきの湯計画作成担当者情報交換会	12	藤沢市介護保険事業所連絡会総会
	7	第1回運営会議	26	施設見学 (シニアメゾン大庭)	12	NPO法人ふじさわNPO連絡会理事会
	9	デイミーティング	30	藤沢市ひとり親家庭日常生活支援事業研修	22	神奈川県 社福等代表者施設長合同会議
	10	第1回運営報告会、ヘルパー会議、デイ・一番館スタッフ会議			23	市民福祉団体全国協議会常務理事会
	13	しがらきの湯曜日リーダー会議			25	コンフォール藤沢自治会総会
	15	事務局会議			27	藤沢市障害者自立支援協議会・居宅サブ協議会
	16	厨房ミーティング			28	藤沢市ケアマネ連絡会総会・研修会
	17	藤が岡の家月例食事会				
	20	デイリーダー会				
	21	税理士打合せ (26) しがらき・一番館ミーティング、交流会企画委員会				
	26	ケアミーティング				
	27	研修プロジェクト				
	28	ケアマネ会議、藤が岡の家スタッフ会議、デイミーティング				
	28	花どけい編集委員会				
5月	5	第2回運営会議	8	神奈川県小規模連絡会研修「リスクマネジメント」	12	介護保険を維持・発展させる1000万人の輪
	7	厨房会議	11	ぐるーぶ藤ホームヘルプ新人研修	13	藤沢市個人情報保護運営審議会
	8	第2回運営報告会、ヘルパー会議、デイ・一番館スタッフ会議	13	精神保健福祉講座「定年性依存症」	17	NPO法人ふじさわNPO連絡会総会
	10	期末監査	13	NPO渋谷研修「在宅ターミナルの検討」	25	NPO法人昇の会理事会
	11	しがらきの湯曜日リーダー会議	14	ぐるーぶ藤ホームヘルプ新人研修	27	藤沢市障害者自立支援協議会・居宅サブワーキンググループ
	14	代表者会議	16	認知症サポーター養成講座	28	藤沢市精神障害者地域生活支援連絡会
	14	厨房ミーティング	21	藤沢市介護保険認定調査員新任研修	29	NPO法人昇の会総会
	18	研修プロジェクト	21	在宅医療研究会研修「口腔ケアと口腔リハビリ」		
	19	しがらき・一番館ミーティング				
	19	しがらきの湯運営推進会議				
	20	藤が岡の家月例食事会				
	22	第6回 (通算第18回) 通常総会				
	24	看護師ミーティング				
	26	税理士打合せ				
	26	評価プロジェクト				
	27	花どけい編集委員会				
6月	1	デイリーダー会	4	認知症サポーター養成講座	4	市民福祉団体全国協議会常務理事会
	2	ケアマネ会議	5	市民福祉団体全国協議会講演会	5	市民福祉団体全国協議会総会・交流会
	3	代表者会議 (4・17)、藤が岡の家スタッフ会議	9	リハビリデイナgomi見学体験研修	18	栄区区民講座「あなたも乗り越えられる老後のハブコック」
	7	ケアミーティング、花どけい編集委員会	10	食品衛生責任者講習会	20	札幌エコナチュラルフェスタ講師 「NPO活動と福祉マンション」
	8	デイミーティング	14	介護保険指定事業者集団指導講習会	21	横浜国大講師「NPO活動と福祉マンション」
	9	第3回運営会議	16	NPO渋谷研修「成年後見制度について」	22	藤沢市小規模多機能連絡会
	11	厨房ミーティング	17	聖テレジアオープンセミナー「嚥下障害とリハビリテーション」	25	コンフォール藤沢夏祭り実行委員会
	12	第3回運営報告会、ヘルパー会議、デイ・一番館スタッフ会議	17	藤沢一般酒害相談研修会	26	コンフォール藤沢ふれあい喫茶
	16	しがらき・一番館ミーティング	25	介護職員処遇改善対策事業キャリアパス説明会	30	NPO法人ふじさわNPO連絡会理事会
	17	村岡中学校職場体験受け入れ (24・25) 事務局会議	26	認知症サポーター養成講座		
	19	藤が岡の家月例食事会				
	22	一番館消防訓練				
	22	評価プロジェクト				
	24	税理士打合せ				
	27	第1回交流会「崎陽軒で会食」				
	28	第1回理事会、花どけいNo. 58発行				
	29	ケアマネ会議				
	30	藤が岡の家スタッフ会議				
7月	1	訪問看護事業開始、ケアミーティング	3	ぐるーぶ藤公開医療講座「腰痛の原因と治し方」	3	名古屋「事業型NPO育成支援講座」講師
	2	代表者会議 (16)、厨房会議	6	「高齢者施設におけるターミナルケア」	8	藤沢市個人情報保護運営審議会
	6	デイリーダー会	7	藤沢市事業所連絡会主催「介護のブル養成講座1」	10	「社会的企業育成支援事業シンポジウム」パネリスト
	7	第4回運営会議	8	精神保健福祉講座「統合失調症と治療の実際」	22	藤沢市障害者自立支援協議会・居宅サブ協議会
	9	厨房ミーティング	13	聖テレジアオープンセミナー「脳血管障害の概要及び高次脳機能障害」	23	通所介護事業所情報交換会
	10	第4回運営報告会、ヘルパー会議、デイ・一番館スタッフ会議	15	ぐるーぶ藤ホームヘルプ研修「身近な病気『精神障害』を理解しよう」	27	藤沢市障害者計画策定に伴う聞き取り調査
	12	藤が岡の家月例食事会	18	第18回竹内先生介護講座・交流会	29	「iSB公共未来塾」講師
	14	花どけい編集委員会 (8/4)	20	老人保健施設「きらら」見学研修	29	藤沢市障害者自立支援協議会・居宅サブ 研修ワーキンググループ
	17	一番館運営懇談会	22	介護保険指定事業者集団指導講習会	31	コンフォール藤沢夏祭り実行委員会
	21	しがらき・一番館ミーティング	31	社会保険福祉協会「介護技術スキルアップ研修」		
	27	ケアマネ会議				
	27	税理士打合せ				
	28	藤が岡の家スタッフ会議				
	30	厨房ミーティング				
8月	3	デイミーティング	4	社会保険福祉協会「介護技術スキルアップ研修」中級	5	「iSB公共未来塾」講師
	4	花どけい編集委員会 (18・25)	10	社会保険福祉協会「介護技術スキルアップ研修」初級	12	藤沢市個人情報保護運営審議会
	5	ケアミーティング	11	藤沢市せつけん推進協議会講座「コネコネせつけん作り」	23	藤沢市障害者自立支援協議会・居宅サブ協議会
	6	代表者会議 (20)	20	聖テレジアオープンセミナー「神経疾患について・低栄養について」	27	藤沢市精神障害者地域生活支援連絡会
	9	訪問看護会議	22	ぐるーぶ藤・湘南改造家共催「オムツを使わない暮らしのために」	28	コンフォール藤沢夏祭り
	9	～9/3「iSB公共未来塾」インターンシップ受け入れ (8名)	23	「介護保険制度について・感染予防について」		
	11	第5回運営会議	25	「介護保険制度改正の動向・ケアマネジャーは生き残れるか」		
	12	デイリーダー会	31	社会保険福祉協会「介護技術スキルアップ研修・基礎」		
	14	第5回運営報告会、ヘルパー会議、デイ・一番館スタッフ会議				
	16	しがらき・一番館ミーティング				
	18	しがらきの湯運営推進会議、花どけい編集委員会 (25)				
	19	しがらき曜日リーダー会議、事務局会議				
	20	20周年記念事業実行委員会				
	24	研修プロジェクト、評価プロジェクト				
	27	税理士打合せ、厨房ミーティング				
	31	ケアマネ会議				
9月	1	藤が岡の家スタッフ会議	1	社会保険福祉協会「介護技術スキルアップ研修・基礎」	6	神奈川県小規模多機能連絡会
	3	代表者会議 (17)、厨房会議	12	保健所主催「こころサポーター養成講座」	9	藤沢市個人情報保護運営審議会
	7	デイミーティング、デイリーダー会	15	理事長と語る会	14	NPO法人ふじさわNPO連絡会理事会
	7	木村労務士打合せ	17	第6包括主催「地域ケアマネジャー研修会情報交換会」	16	葛飾区「ひとり暮らしの友の会」講師
	8	第6回運営会議	25	社会保険福祉協会「介護技術スキルアップ研修・中級」	24	藤沢市障害者自立支援協議会・居宅サブ協議会
	9	訪問看護会議、障害者自立支援事業実地指導	25	認知症サポーター講座		
	11	第6回運営報告会、ヘルパー会議、デイ・一番館スタッフ会議	25	あやみ薬局主催「人工関節と最近の整形外科治療」		
	16	しがらき曜日リーダー会、花どけい編集委員会	28	訪問看護事業所説明会		
	17	厨房ミーティング				
	18	藤が岡の家月例食事会				
	27	研修プロジェクト				
	27	第2回理事会、花どけいNo. 59発行				
	28	税理士打合せ、ケアマネ会議、デイミーティング				
	29	しがらき・一番館ミーティング				
	29	藤が岡の家スタッフ会議				
	29	評価プロジェクト				

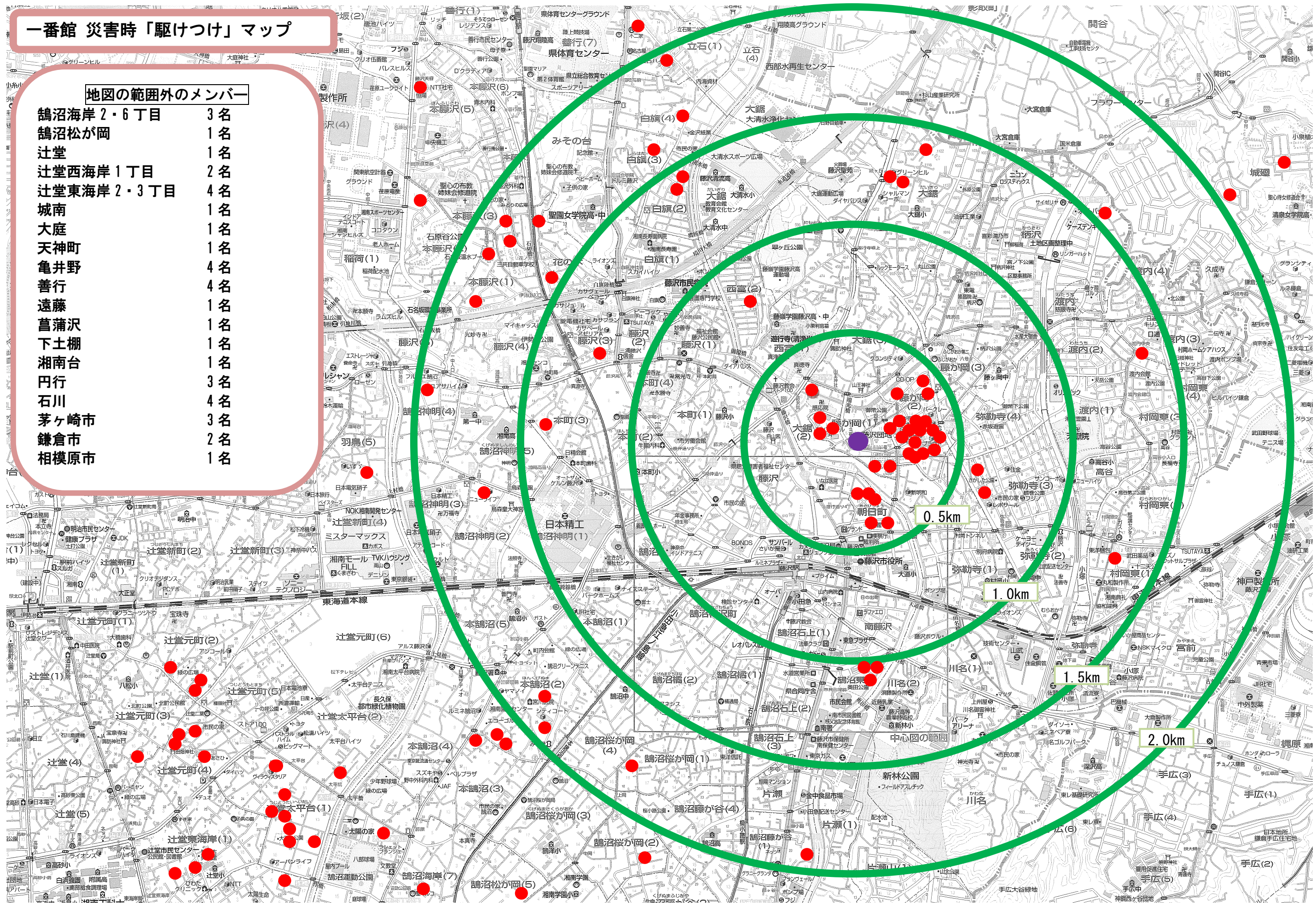
月	日	内 部 活 動	日	研 修、学 習	日	外 部 活 動
10月	1	代表者会議 (15)	2	ユニットケア全国セミナー	2	ユニットケア全国セミナー講師
	4	ケアミーティング、訪問看護会議	5	ケアマネ連絡会Aグループ主催「成年後見制度」	2	門倉組地引網大会
	4	20周年記念事業実行委員会	6	藤沢市事業所連絡会主催「介護のプロ養成講座2」	9	藤沢市小規模多機能連絡会
	5	デイリーリーダー会	13	理事長と語る会	14	藤沢市個人情報保護運営審議会
	6	第7回運営会議	14	精神保健福祉講座「うつ病と治療の実際」	14	市民福祉団体全国協議会常務理事会
	6	花どけい編集委員会	17	～24 海外研修(ドイツ・オランダ) 3名参加	22	藤沢市精神障害者地域生活支援連絡会
	9	第7回運営報告会、ヘルパー会議、デイ・一番館スタッフ会議	20	世話人研修「イラッとすること他」	27	藤沢市障害者自立支援協議会・居宅サブ協議会
	15	厨房ミーティング	20	聖テレジアオープンセミナー「薬の正しい使い方」	27	NPO法人ふじさわNPO連絡会理事会
	21	藤が岡の家月例食事会、事務局会議	23	神奈川県訪問看護ステーション連絡協議会主催 「ターミナル期を支えるチームケア」	27	神奈川県小規模連絡会総会
	26	ケアマネ会議、	27	神奈川県小規模連絡会研修「期待される役割」	28	NPO法人昴の会理事会
	27	しがらき・一番館ミーティング	29	スキルアップ研修		
	27	評価プロジェクト、花どけい編集委員会				
	28	藤が岡の家スタッフ会議				
	29	税理士打合せ				
	30	第2回交流会「はとバスツアー」				
11月	1	訪問看護会議	2	スキルアップ研修	4	慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス大学院講師
	2	デイミーティング	5	ケアマネ連絡会主催「個人情報保護の重要性」	9	藤沢市障害者自立支援協議会・居宅サブ協議会
	4	ケアミーティング	6	木村千尋先生「色彩心理を介護に活かそう」	11	藤沢市個人情報保護運営審議会
	5	代表者会議 (12・19)、厨房会議	6	神奈川県看護協会主催「看取りの看護」	12	生活クラブ福祉事業連合
	9	～10 湘洋中学校職場体験受け入れ (3名)	8	スキルアップ研修 (16・25・30)		「コミュニティ・コーディネーター養成講座」講師
	10	第8回運営会議	8	保健所主催「ノロウイルス等感染症研修会」	22	藤沢市障害者自立支援協議会・居宅サブ協議会
	13	第8回運営報告会、ヘルパー会議、デイ・一番館スタッフ会議	11	レストラン「リビング」見学会	28	会津若松市「福祉のまちづくり講演会」講師
	15	交流会企画委員会	17	聖テレジアオープンセミナー「リハビリテーション・感染症」		
	19	厨房ミーティング	17	理事長と語る会		
	20	藤が岡の家月例食事会	18	ひとり親家庭日常生活支援員研修会		
	22	しがらき・一番館ミーティング、20周年記念事業実行委員会	19	～20 神奈川県看護協会主催「がんの基礎知識と看護」		
	23	花どけい編集委員会	25	防火管理者講習 (26)		
	24	評価プロジェクト	26	神奈川県訪問看護ステーション連絡協議会「親任管理者研修」		
	26	税理士打合せ				
	29	門倉組定期報告検査				
	30	ケアマネ会議、デイミーティング				
12月	1	藤が岡の家スタッフ会議	4	神奈川県訪問看護ステーション連絡協議会主催 「マニュアル活用管理者研修会」	6	湘南高齢期ネットワーク「ボランティア懇談」アドバイス
	3	代表者会議 (17・29)	7	防火管理者講習	9	藤沢市個人情報保護運営審議会
	4	デイ合同家族会	9	スキルアップ研修 (14)	10	NPO法人ふじさわNPO連絡会理事会
	7	訪問看護会議	15	聖テレジアオープンセミナー 「パーキンソン病・類縁疾患など全般について」	22	藤沢市障害者自立支援協議会・居宅サブ協議会
	8	第9回運営会議	16	理事長と語る会		
	10	厨房ミーティング	21	認知症対応型サービス事業管理者研修 (22)		
	11	第9回運営報告会、ヘルパー会議、デイ・一番館スタッフ会議				
	15	しがらきの湯運営推進会議				
	16	ケアマネ・ホームヘルプ情報の公表調査				
	17	花どけい編集委員会				
	18	藤が岡の家忘年会、事務局会議				
	20	税理士打合せ、第3回理事会、花どけいNo.60発行				
	21	藤の花情報の公表調査				
	22	税理士打合せ、しがらき・一番館ミーティング				
	28	ケアマネ会議				
	28	藤が岡の家スタッフ会議				
1月	4	ケアミーティング	19	聖テレジアオープンセミナー 「大腿頸部頸部骨折、転倒予防”転倒年齢”を探る」	9	コンフォール藤沢自治会もちつき
	5	第10回運営会議	22	神奈川県訪問看護ステーション連絡協議会主催 「管理者リーダーシップ研修」	13	藤沢市障害者自立支援協議会・居宅サブ協議会
	7	厨房会議	23	ぐるーぷ藤・湘南改造家共催「リフトに慣れて使ってみよう」	13	藤沢市個人情報保護運営審議会
	8	第10回運営報告会、ヘルパー会議、デイ・一番館スタッフ会議	24	事業所見学会 (シニアメゾン・メディカル藤沢・おたがいさん・いどばた)	13	NPO法人ふじさわNPO連絡会理事会
	14	代表者会議 (24)	27	22年度第4回指定事業者新規セミナー	14	藤沢市介護保険事業所連絡会合同新年会
	15	ぐるーぷ藤新年会			19	藤沢市訪問看護ステーション連絡協議会
	17	しがらき曜日リーダー会、20周年記念事業実行委員会			20	生活福祉研究機構講師
	18	デイミーティング、デイリーダー会			22	あべともこ「新春のつどい」
	21	菜の花情報の公表調査、厨房ミーティング			28	第4回大福の会 (福祉関係ネットワーク懇親会)
	22	藤が岡の家月例食事会				
	24	税理士打合せ、訪問看護会議				
	25	一番艦初詣				
	26	税理士打合せ				
	27	しがらき・一番館ミーティング				
	31	藤が岡の家スタッフ会議				
2月	1	ケアマネ会議、拡大評価プロジェクト	5	県訪問看護協議会主催「管理者フォローアップ研修」	4	NPO法人ふじさわNPO連絡会理事会
	4	代表者会議 (18)	10	個人情報保護講座	10	藤沢市個人情報保護運営審議会
	7	ケアミーティング	11	あべともこと歩む会「樋口恵子講演会」	10	市民福祉団体全国協議会常務理事会
	9	第11回運営会議	15	聖テレジア主催「褥瘡予防について、地域における訪問看護の役割」	18	藤沢市精神障害者地域生活支援連絡会
	10	花どけい編集委員会	16	理事長と語る会	20	ふじさわNPO連絡会主催「湘南福祉フェア2011」
	12	第11回運営報告会、ヘルパー会議、デイ・一番館スタッフ会議	17	藤沢市事業所連絡会主催「介護のプロ養成講座3」	24	藤沢市障害者自立支援協議会・居宅サブ協議会
	15	しがらきの湯外部評価、ケアマネ事業所指定更新	18	小規模多機能サービス等計画作成者担当研修 (21・22)		
	15	デイミーティング、デイリーダー会	21	ケアマネ事業所連絡会Bグループ研修		
	17	研修プロジェクト、花どけい編集委員会、事務局会議	22	サンフォーレ湘南見学		
	18	厨房ミーティング	25	市民病院講演会「緩和ケア」		
	19	しがらき曜日リーダー会、藤が岡の家月例食事会	25	保健所主催「QFT検査の最新知見と臨床への応用」		
	21	訪問看護会議	26	県肢体不自由児協会主催「訪問介護と医療的ケア」		
	22	しがらき・一番館ミーティング	26	西湘地区訪問看護協議会主催「疼痛マニュアル研修」		
	23	臨時運営会議				
	24	夜勤スタッフ会議				
3月	1	藤が岡の家スタッフ会議	2	保健所主催「増加する”高齢者の結核”に対応するために」	2	藤沢市障害者自立支援協議会・居宅サブ協議会主催
	2	ケアマネミーティング	2	藤沢市障害者自立支援協議会・居宅サブ協議会「世話人研修」	6	同志社大学講演「地域包括ケアと地域福祉」
	2	臨時運営会議 (16・23・30)	3	介護福祉士受験対策講座 (5)	10	藤沢市個人情報保護運営審議会
	4	代表者会議 (18・24)、厨房会議	11	市民福祉団体全国協議会一泊研修	24	(仮)震災ネットワーク
	6	第3回交流会「ボーリング大会」	17	食品衛生責任者講習会	31	NPO法人ふじさわNPO連絡会理事会
	7	ケアミーティング	26	施設見学「エデンの園、愛光園」		
	9	第12回運営会議	28	聖隷福祉会有料ホーム「エデンの園」見学		
	19	第12回運営報告会、ヘルパー会議、デイ・一番館スタッフ会議				
	19	藤が岡の家月例食事会				
	22	訪問看護会議、デイミーティング、デイリーダー会				
	23	しがらき・一番館ミーティング				
	25	税理士打合せ				
	28	第4回理事会				
	30	ケアマネ会議				
	30	日本財団車両納車				
	31	藤が岡の家スタッフ会議				



# 一番館 災害時「駆けつけ」マップ

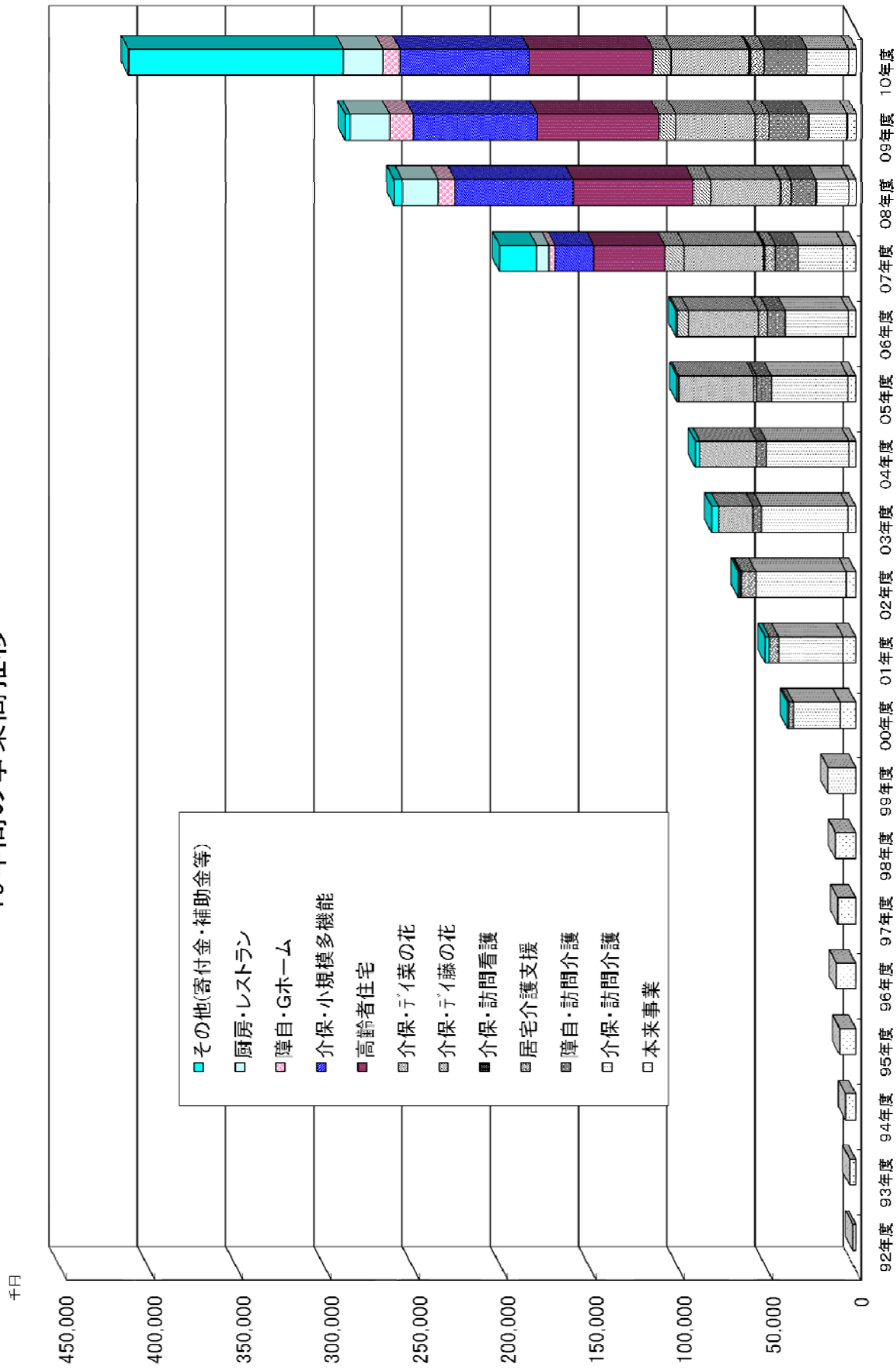
## 地図の範囲外のメンバー

- 鵜沼海岸 2・6丁目 3名
- 鵜沼松が岡 1名
- 辻堂 1名
- 辻堂西海岸 1丁目 2名
- 辻堂東海岸 2・3丁目 4名
- 城南 1名
- 大庭 1名
- 天神町 1名
- 亀井野 4名
- 善行 4名
- 遠藤 1名
- 菖蒲沢 1名
- 下土棚 1名
- 湘南台 1名
- 円行 3名
- 石川 4名
- 茅ヶ崎市 3名
- 鎌倉市 2名
- 相模原市 1名





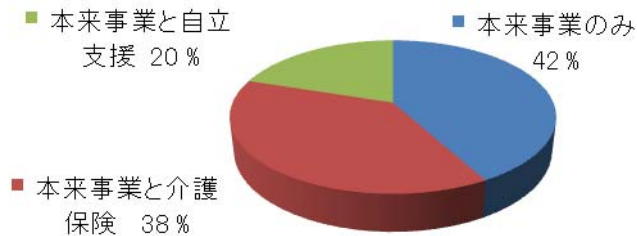
# 19年間の事業高推移



# ご利用者 分布

(2011年1月)

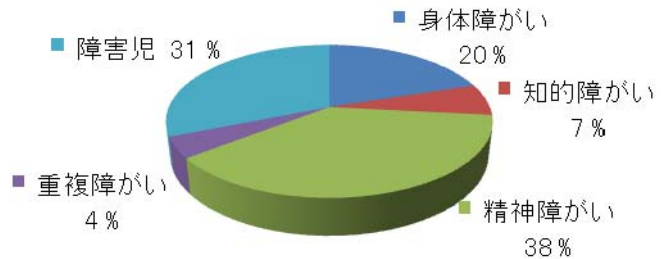
## 訪問介護（本来事業）



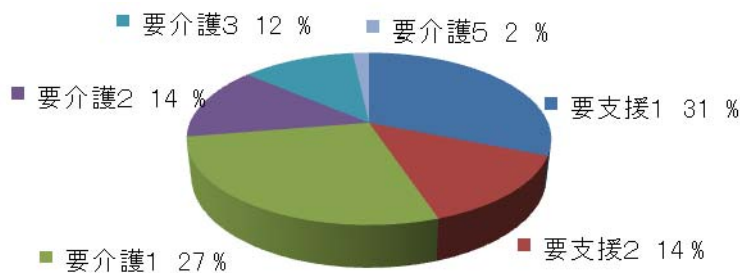
年齢	%
20歳以下	4%
30歳代	6%
40歳代	2%
50歳代	10%
60歳代	12%
70歳代	20%
80歳代	38%
90歳代	8%

## 訪問介護（障がい者自立支援）

年齢	%
児童	31%
20歳代	2%
30歳代	13%
40歳代	20%
50歳代	24%
60歳代	9%



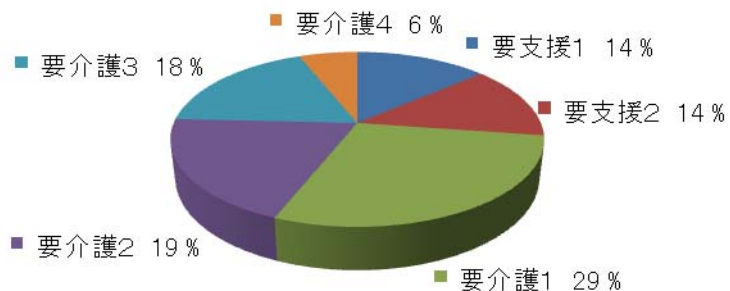
## 訪問介護（介護保険）



年齢	%
40歳代	2%
50歳代	3%
60歳代	9%
70歳代	24%
80歳代	47%
90歳代	16%

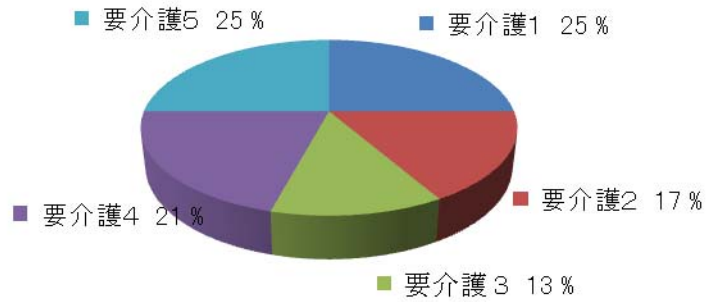
## 居宅介護支援

年齢	%
40歳代	2%
50歳代	2%
60歳代	6%
70歳代	26%
80歳代	47%
90歳代	18%



小規模多機能型居宅介護(しがらきの湯)

年齢	%
60歳代	0%
70歳代	21%
80歳代	42%
90歳代	38%



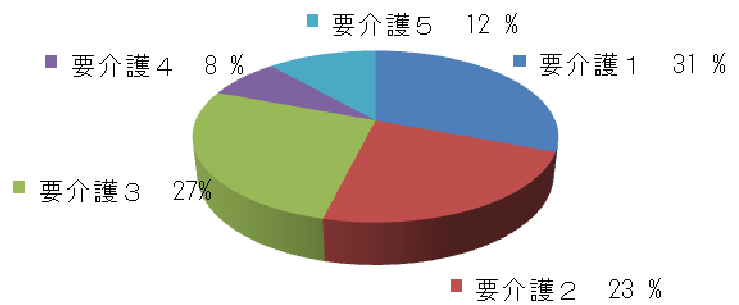
予防通所介護(デイハウス菜の花)



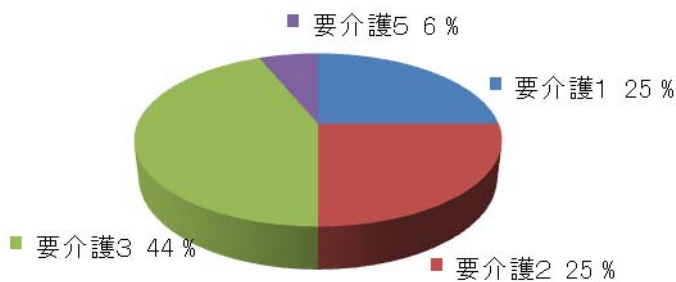
年齢	%
60歳代	0%
70歳代	8%
80歳代	62%
90歳代	31%

通所介護(デイハウス藤の花・カルチャー)

年齢	%
60歳代	12%
70歳代	12%
80歳代	50%
90歳代	27%



通所介護(デイハウス藤の花・認知)



年齢	%
60歳代	6%
70歳代	19%
80歳代	56%
90歳代	19%

## 第2号議案 2010年度 決算報告及び監査報告

2010年度 活動計算書(特定非営利活動に係る事業)

2010年4月1日から2011年3月31日まで

科 目	金 額	(税込、単位：円)
I 経常収益		
1 入会金収入		
正会員入会金	14,000	
さわ会員入会金	24,000	38,000
2 会費収入		
さわ会員年会費	92,000	
賛助会員年会費	35,000	127,000
3 事業収入		290,569,035
4 補助金等収入		2,030,000
5 寄付金収入		119,515,622
6 雑収入		
受取利息	22,918	
雑収益	1,736,674	1,759,592
経常収益計		414,039,249
II 経常費用		
1 事業費		
(1) 人件費		
給料手当等	130,559,455	
人件費計	130,559,455	
(2) その他経費		
食材費	13,830,451	
事業費交通費	6,225,779	
消耗品費	2,097,150	
繕製費	783,570	
印刷製本費	116,405	
什器備品費	1,134,703	
光熱水道費	1,442,681	
賃借料	6,653,640	
保険料	259,484	
通信費	428,743	
研修費	177,594	
会議費	945	
まちづくり対策	497,172	
租税公課	7,720,879	
雑費	2,179,988	
その他経費計	43,549,184	174,108,639
2 管理費		
(1) 人件費		
給料手当・賞与	43,683,345	
福利厚生費	2,316,646	
人件費計	45,999,991	
(2) その他経費		
会議費	927,339	
交通費	1,221,659	
通信費	1,244,260	
備品費	1,458,693	
消耗品費	1,218,137	
繕製費	242,848	
印刷製本費	1,131,089	
光熱水道費	6,890,537	
賃借料	2,812,080	
保険料	9,641,465	
諸謝金	29,436	
研修費	1,714,335	
二番館準備費	164,241	
租税公課	2,432,200	
寄付金	100,000	
法定福利費	14,990,573	
雑費	5,927,430	
支払利息	10,855,594	
減価償却費	13,927,794	
その他経費計	76,929,710	122,929,701
経常費用計		297,038,340
当期経常増減額		117,000,909
当期正味財産増減額		117,000,909
前期繰越正味財産額		39,590,688
次期繰越正味財産額		156,591,597

(注) 当期より特定非営利活動促進法第28条第1項の収支計算書を活動計算書と呼んでいます。

2010年度貸借対照表(特定非営利活動に係る事業会計)  
2011年3月31日現在

科 目	金 額		(単位：円)
I 資産の部			
1 流動資産			
現 金	975,463		
普 通 預 金	109,891,893		
貯 蔵 品	545,688		
未 収 金	30,986,797		
前 払 金	968,420		
仮 払 金	1,283,225		
流動資産合計		144,651,486	
2 固定資産			
有形固定資産			
建 物	319,213,496		
建 物 附 属 設 備	8,156,984		
構 築 物	1,760,394		
車 両 運 搬 具	2,985,308		
什 器 備 品	2,877,453		
土 地	166,519,448		
有形固定資産合計	501,513,083		
無形固定資産			
電 話 加 入 権	180,600		
ソ フ ト ウ ェ ア	113,084		
無形固定資産合計	293,684		
投資等			
敷 金	45,000		
保 証 金	77,000		
投資等合計	122,000		
固定資産合計		501,928,767	
資 産 合 計			646,580,253
II 負債の部			
1 流動負債			
未 払 金	18,169,192		
前 受 金	68,032,014		
預 り 金	11,875,000		
仮 受 金	9,450		
流動負債合計		98,085,656	
2 固定負債			
長 期 借 入 金	391,903,000		
固定負債合計		391,903,000	
負 債 合 計			489,988,656
III 正味財産の部			
前期繰越正味財産		39,590,688	
当期正味財産増減額		117,000,909	
正味財産合計			156,591,597
負債及び正味財産合計			646,580,253



2010年度 財産目録

2011年3月31日現在

科 目		金 額 (単位:円)	
<b>I 資産の部</b>			
<b>1 流動資産</b>			
現 金	現金手許有高	975,463	
普 通 預 金	横浜銀行 中央支店 4口座	109,891,893	
未 収 金	利用料等	30,986,797	
貯 蔵 品	ユニホーム、書籍等	545,688	
前 払 費 用	前払保険料、リクル預託金	968,420	
仮 払 金	ソフト開発費等	1,283,225	
流 動 資 産 合 計			144,651,486
<b>2 固定資産</b>			
建 物	一番館 藤が岡	319,213,496	
建 物 附 属 設 備	電気設備等	8,156,984	
構 築 物	藤の花外構工事	1,760,394	
車 両 運 搬 具	ワゴン2台、日産セレナ、トヨタ	2,985,308	
什 器 備 品	ガス乾燥機、ソファ他	2,877,453	
土 地	一番館 藤が岡	166,519,448	
有 形 固 定 資 産 合 計			501,513,083
電 話 加 入 権		180,600	
ソ フ ト ウ ェ ア	一番館 ホームページ	113,084	
無 形 固 定 資 産 合 計			293,684
敷 金	藤が岡 駐車場3台	45,000	
保 証 金	ガス保証金他	77,000	
投 資 等 合 計			122,000
固 定 資 産 合 計			501,928,767
資 産 合 計			646,580,253
<b>II 負債の部</b>			
<b>1 流動負債</b>			
未 払 金	3月分給料等 他	18,169,192	
前 受 金	一番館入居者入居金等	68,032,014	
預 り 金	一番館入居者等預り保証金	11,875,000	
仮 受 金	レストランおけ食事券10枚分	9,450	
流 動 負 債 合 計			98,085,656
<b>2 固定負債</b>			
長 期 借 入 金	横浜銀行、ふじファント借入	391,903,000	
固 定 負 債 合 計			391,903,000
負 債 合 計			489,988,656
正 味 財 産			156,591,597

# 監 査 報 告 書

NPO法人ぐるーぶ藤  
理事長 鷲尾 公子殿

下記の通り監査を実施いたしましたので、ご報告いたします。

## 記

- ・ 監査実施日 2011年5月19日
- ・ 立 会 人 理事長 鷲尾 公子、事務局長 吉村さえ子、財務担当 富田 信美
- ・ 監査対象期間 2010年4月1日～2011年3月31日
- ・ 監 査 方 法 実査及び立会人からの聞き取り

### 1. 会計監査

- ・ 諸伝票、預金通帳、現金、証憑書類並びに活動計算書、貸借対照表及び財産目録などについて実査した結果、いずれも適正に処理されていることを認めます。各書類も整理され内容も理解しやすく表現されています。NPO法人として専門職の助言も受けられ、安定した事業運営を行ったことを高く評価します。

### 2. 業務監査

理事長 鷲尾 公子氏から2010年度事業に関する概況説明を受け、当該活動方針に沿って監査を実施しました。

- ・ 常に、ぐるーぶ藤の理念を会員が共有することをめざし毎月の運営報告会や部門会議を開催する他に、会員のスキルアップのために研修をかかさず続けていることを高く評価します。
- ・ NPO法人として社会的責任を果たし、尚会員の福利厚生を重視し有給休暇制度を導入したことで安心して働くことができるようになり、スタッフ同士の協力ができていることを高く評価します。
- ・ ぐるーぶ藤の活動は各方面から注目されています。他に例をみない活動実績は内閣府からの委託によるISB公共未来塾のインターンシップ生の受け入れにも現れていることを認めます。
- ・ 今年は20周年を迎えます。地域に根ざして市民が創る福祉社会の実現に向けた二番館の建設に期待します。

2011年5月19日

監事 土屋律子



監事 藤澤 抱一



## 第3号議案

### 2011年度事業計画

#### I. 事業方針

##### (1) 基本方針

年老いても、障がいがあっても、病気になっても安心して暮らせる地域社会をつくるため、特定非営利活動法人として社会的責任を果たすとともに、市民相互の助け合いのまちづくりをめざします。

##### (2) 運営方針

###### 1. 組織運営

NPO法人ぐるーぷ藤は、趣旨書および定款にもとづき事業を行います。

理事会の議決を経て事業と活動の方針について討議する代表者会議を月1～3回行います。そこでまとめられた提案事項について、毎月開かれる運営会議で検討し、その後、全メンバーを対象に運営報告会を開催し活動を共有します。また、それぞれの部門会議において会員の意見交換を行いその内容を事業活動に反映させる等、民主的な運営をめざします。

昨年度も「ぐるーぷ藤一番館・藤が岡」の地元を中心に新しい仲間を迎えることができました。創設の理念を共有し継承することを大切にして、多様な働き方を実践していきます。ホームヘルプを対人援助の基本と捉え、各部門のスタッフが在宅支援を経験することをさらにすすめます。ホームヘルプ活動からスタートし事業を拓げてきた藤は今年度創立20周年を迎えます。20年間の活動の総括と継続を祝う式典を実施します。

現在国会で議論されている「認定NPO法」が制定された場合にはその取得をめざします。「認定NPO法」はNPO法人の活動を活性化することを目的として、活動資金を外部から受け入れやすくするための制度であり、その運営組織及び事業活動が適正であり社会に貢献し一定の要件を満たすことにより認定を受けられます。認定NPO法人に寄付をされる方にとっても所得税の控除が受けられ、日本に寄付文化が根づくこと期待されるものです。

藤が岡の地にしっかり根を張り各事業をさらに安定させるとともに、一番館運営により見えてきたニーズに対応するため「二番館」の建設準備をすすめます。「二番館」は今年度中の着工をめざし二番館建設委員会を発足させます。

また役員の報酬について、各部門の管理者や主任等をメンバーとする役員報酬検討プロジェクトも発足させます。

## 2. 事業・活動部門

利用者の多様なニーズにできるだけ柔軟に対応し、本来事業、介護保険事業（訪問介護・通所介護・居宅介護支援・小規模多機能型居宅介護）、障がい者自立支援事業（居宅介護・精神障がいグループホーム）、訪問看護事業、高齢者住宅事業を連携させ、より充実した福祉の実現をめざします。

「ぐるーぷ藤一番館・藤が岡」においては、NPO版地域包括支援センターとしての位置づけで総合相談窓口をさらに充実させ、地域の安心を支える福祉拠点としての機能を果たします。レストラン「オハナ」では、食事の場だけでなく地域の交流の場・憩いの場としても多くの方にご利用いただけるような運営をめざします。

### 2-1 訪問介護（ぐるーぷ藤ホームヘルプ）

利用者に寄り添いその方らしく暮らしていただくために、心のこもったホームヘルプサービスで在宅生活を支えます。本来事業では利用者や家族のさまざまなニーズに対応し藤らしい訪問サービスを行います。介護保険事業、障がい者自立支援事業では地域を支えるヘルパー事業所として、事業所加算Ⅱを取得した事業所としての誇りをもって、昨年に引き続き困難なケースにも積極的に対応し、多様な利用依頼に出来る限りこたえることができるように努力していきます。また近年増えてきている医療依存度の高い方の在宅支援に対し、さまざまな研修を充実させ医療的ケアに対応できるヘルパーを増やし、対人援助の基本である訪問介護の介護力の向上に努めます。

### 2-2 通所介護（デイハウス藤の花・デイハウス菜の花）

デイハウス藤の花では、カルチャーデイと認知症対応型デイにより、ゲスト一人ひとりに合ったきめ細かいサービスを提供していきます。

また今年度もゲストの心身の機能維持を目的とした個別機能訓練を充実させていきます。デイサービスはご本人が楽しんでいただくとともにご家族の支援も大きな使命です。連絡ノートを活用しご本人の様子を伝え、ご家族の在宅介護の悩みに答え、介護技術など必要に応じてアドバイスをしていきます。また、相談日や家族会を開催しスタッフを交え家族同士で日々の介護に対する思いを語り合うなど情報交換の場を持ち支援につなげていきます。

デイハウス菜の花では、介護予防のサロンデイとして自立のための機能訓練を行うとともに、ゲスト自ら創り参加し憩いの場となるよう努めます。

3種類のデイを行うことで個別に対応し、個性を大切に居心地のよいデイサービスをめざします。

### 2-3 居宅介護支援（ぐるーぷ藤ケアマネジメント）

住み慣れた地域で自分らしく暮らすため、ニーズに沿った公正中立なケアプラン作成に努めます。利用者の身体状況や変化に応じて医療との連携を密にし、的確なケアプランの見直しを行い、安心して在宅で暮らせるように支援します。

地域の福祉コーディネーターとして地域包括支援センターや民生委員と連携しながら、近隣にお住まいの方々の相談に迅速に対応していきます。

近年急速に増加し社会問題化している認知症高齢者の支援については、正しく認知症を理解し、本人・家族が孤立せず穏やかに暮らしていくためのより良い方法を模索し提案していきます。

今年度は事業所加算要件を満たす事業所として、知識だけでなく洞察力と共感によってニーズを感じ取る能力を磨くように質の向上に努めます。

### 2-4 小規模多機能型居宅介護（しがらきの湯）

通いなれた施設での日中の通い、夜の泊まり、必要に応じた訪問を組み合わせ、利用者との「なじみの関係」を大切にされたケアをさらに充実させるよう努めます。認知症サポーター養成講座の開催、運営推進会議での情報交換など地域との連携を図り、またご利用者家族同士も馴染みの関係ができるよう家族会を開催します。

スタッフも多くの研修に参加することでスキルアップし、住み慣れたこの地域で暮らしたいと望まれる方が安心して生活を継続していけるよう支援します。さまざまなボランティアの協力を得て藤が岡地域に住むご近所さんとしてさりげなく見守りご利用者に寄り添っていきます。

### 2-5 訪問看護

訪問看護ぐるーぷ藤は、住み慣れた家で安心して暮らしたいというご利用者の思いを大切に、予防的看護から医師の指示による医療的処置まで様々なサービスを提供します。主治医やケアマネジャーとの連携を密に図り、ご利用者の状態変化の早期発見に努め迅速に対応していくとともに、ご家族への精神的援助を行っていきます。

今年度より、介護保険では緊急時訪問看護加算、健康保険法による医療保険では24時間連絡体制加算の届け出をし、緊急時にはいつでも対応できるようにしました。

### 2-6 精神障がいグループホーム（藤が岡の家）

複合施設の中にあるグループホームという特色を生かし、世話人を中心として日常生活をサポートするとともに、看護師始め他のスタッフの暖かい声かけや見守りを通して安心の暮らしを提供します。状況に合わせて通院同行を行うな

ど日常的に医療機関との連携をとり、病状の相談等を行っていきます。また地域の作業所や行政機関・ハローワークなどの専門機関とも協力をしながら、それぞれの入居者にあった自立した生活、社会参加を実現できるよう支援します。

### 2-7 高齢者住宅（ぐる一歩藤一番館）

「終の棲家」としておもてなしの心を大切にし、お住まいの方にその方らしく安心して楽しく暮らしていただけるよう努めます。そのために看護師による個別の健康相談を充実させ主治医との連携を図ります。必要に応じて介護保険と一番館サービスを組み合わせ、さまざまなニーズに対応します。

運営懇談会や毎月の手紙を通してご家族とのつながりを大切にし、地域とも連携しながら季節感のある行事等を行っていきます。

居室等にスプリンクラーを設置し設備内容を充実させるとともにスタッフの防災意識を高め急な災害時にいつでも対応できるようにします。

### 2-8 厨房及びレストラン（オハナ）

厨房では管理栄養士を配置し、一番館・藤が岡にお住まいの方々・しがらきの湯を利用されている方々の急な体調の変化や要望に迅速に対応し、やわらか食・ミキサー食・大盛り食等さまざまな形態の食事を提供します。また震災により品不足、計画停電等体験したことを生かし、今まで以上に在庫管理やスタッフの衛生・防災管理に対する意識を高めていきます。

レストラン「オハナ」は、施設のシンボルとしてくつろいでいただける雰囲気づくりに努め、これからも地域の方の交流の場・憩いの場をめざします。またお弁当や惣菜等メンバーの食卓も含め多くのニーズに対応し、安全で美味しい食事を提供していきます。

### 2-9 総合相談窓口

総合相談窓口では看護師・介護福祉士・社会福祉士・精神保健福祉士・ケアマネジャーが常駐し、地域の駆け込み寺として福祉・医療に関するあらゆる相談に24時間応じます。

長年の経験を生かし緊急のSOSに対応するとともに、地域においては権利擁護の観点に立ち、弁護士・民生委員・地域包括支援センター等に橋渡しをするNPO版地域包括支援センターの役割を担います。

## **3. 管理部門**

ぐる一歩藤総体の事務局として管理運営に責任をもち、効率的に業務を遂行できるよう努めます。各部門の請求業務、官公庁への各種届出、他団体や業者との折衝を確実に遂行します。予算の執行にあたっては、人員配置・物品管理・

水道光熱費すべてにおいて無駄を省き経費節減に配慮し、特に節電に努めます。各部門で円滑な業務遂行ができるよう縁の下の力持ちの役割を果たします。

火災・震災等の予防及び安全確保のため、消防計画に基づき藤沢南消防署立会いのもと年2回防災訓練を行なうとともに、3月11日の東日本大震災を教訓に電池、ローソク、食料品等を必要量備蓄します。また館内の消防用設備の点検を強化し高齢者住宅にスプリンクラーを設置します。

事業の拡大によって増加する個人情報の保護にはなお一層配慮し、セキュリティの管理に努めます。

### 3-1 会員（メンバー）と福利厚生

まちづくりの理念に賛同する仲間を増やします。それぞれのメンバーの資格や能力を生かして皆が生きいきと働ける多様な職場づくりをめざし、自己実現の場をつくります。また次世代法の改正により義務付けられた一般事業主行動計画に基づき、子育て支援をさらに進め働きやすい環境作りを行います。

多くのメンバーが参加し親睦を深められる交流会の開催や心とからだの健康相談を継続するなど福利厚生の充実に努めます。また有給休暇の取得を推進するとともに、今年度は退職功労金制度の運用について検討を行います。

### 3-2 広報活動

広報誌「花どけい」はさらに内容を充実させ、まちづくりの情報発信の場にするとともにご利用者との交流を図ります。見学者や訪問者には資料としても活用します。各部門のパンフレットは活動に合わせ改定していきます。またホームページはアクセスしやすいサイトをめざし内容をバージョンアップし、より見やすく今後も改良していきます。

## 4. 研修プロジェクト

ぐるーぷ藤の基本方針を達成する為には利用者の多様なニーズにきめ細かく対応できるようメンバー一人ひとりに高度なスキルが要求されます。各々の目標を設定し、日々の業務の中で自己実現につなげていくためにも今年度は『理念と思いの共有』『スキルアップ』『これからの介護について』を学びの3本柱とします。

メンバー及び地域のニーズに合せ介護技術や幅広い知識の習得を目的に研修計画を策定するとともに、経験やスキルに合わせた体系的な研修を組み立てていきます。

またトップリーダー養成研修として今年度はイギリス海外研修を実施します。

## 5. 役員報酬検討プロジェクト

民主的な事業運営の継続のためにこれまで3年ごとに開設してきた役員報酬検討プロジェクトを設置します。理事長をはじめとする役員の役割、業務内容と業務量、責任の重さ等を分析し市民事業型賃金形態を検討します。構成員は各部門の管理者・主任等とし藤全体の意見を反映できるようにします。

## 6. 20周年実行委員会

今年度ぐる一ふ藤は20周年を迎えます。これを記念し11月26日にグラウンドホテル湘南にて式典を行い、樋口恵子氏による記念講演を予定しています。

全員参加とし式典では会員勤続表彰を行い、楽しいパーティーを企画します。藤が歩んできた20年の歴史を盛り込んだ記念誌の作成には、昨年度の委員に加え花どけいの編集委員と各部門からの新しい委員で取り組みます。

## 7. 二番館建設委員会

“福祉のまちづくり”をめざし一番館と同様に地域の福祉拠点として、皆と繋がりながら自分らしく生きいきと暮らせる場や、多様なメンバーがお互いに助け合って働く場を作り出すことを目的に二番館計画に着手します。

ぐる一ふ藤の中期計画の達成と地域のニーズに応えるため、NPOらしい運営による二番館建設の委員会を設置します。高齢者専用住宅・精神障がい者グループホーム・通所介護・小規模多機能型居宅介護・レストラン・たまり場・地域の人も使える会議室等、地域の中で市民事業の担うべき役割と、一番館運営で見えてきた課題を解決するため二番館の年度内着工に向け取り組みます。

## 8. その他の活動

幼児教室どんぐり園、コンフォール藤沢自治会、ボランティアすみれ及び他団体と連携しながら地域に根ざした活動を行います。今年度も地域で地道な活動をするNPOや障がい者団体等に「まちづくり対策費」を活用しそれぞれの活動を支援していきます。また藤沢市の諸団体の委員、市民福祉団体全国協議会等での活動を通じて介護保険はじめ福祉に関して市民の立場に立った提案をしていきます。さらに各種講師等の機会を通して、ぐる一ふ藤の活動を広く紹介するとともに啓発活動を行います。今年度も見学者やメディアの取材には丁寧に対応していきます。また東日本大震災で被災された方々への支援は引き続き続きます。



## Ⅱ. 事業内容

### 1) 特定非営利活動に係る事業

#### (1) 家事、介護、育児等に関する生活支援サービスおよび相談事業

##### 1. 通常事業

- ①内 容：高齢者、障がい者などの介護、家事援助および産後、育児等の生活支援および相談
- ②日 時：通年
- ③場 所：藤沢市およびその近接地域
- ④従事者人員：70名
- ⑤対 象 者：90名
- ⑥事 業 費：¥4,604,280

#### (2) 地域福祉の向上に向けた学習および研修、啓発を図る事業

##### 1. 介護講座等

- ①内 容：介護講座
- ②日 時：7月、9月、11月
- ③場 所：ぐるーぷ藤一番館・藤が岡
- ④従事者人員：7名
- ⑤対 象 者：藤会員およびさわ会員、地域の方
- ⑥研 修 費：¥300,000

#### (3) 介護保険法にもとづく事業

##### 1. 訪問介護事業

- ①内 容：介護保険対象者への訪問介護サービスの提供
- ②日 時：通年
- ③場 所：藤沢市域
- ④従事者人員：70名
- ⑤対 象 者：80名
- ⑥事 業 費：¥16,101,865

## 2. 訪問看護事業

- ①内 容：介護保険対象者への訪問看護サービスの提供
- ②日 時：通年
- ③場 所：藤沢市域
- ④従事者人員： 4名
- ⑤対 象 者：45名
- ⑥事 業 費：¥9,623,041

## 3. 通所介護事業

- ①内 容：介護保険対象者への通所介護サービスの提供
- ②日 時：通年
- ③場 所：藤沢市域
- ④従事者人員：30名
- ⑤対 象 者：80名
- ⑥事 業 費：¥46,334,587

## 4. 居宅介護支援事業

- ①内 容：介護保険対象者への居宅介護支援サービスの提供
- ②日 時：通年
- ③場 所：藤沢市域
- ④従事者人員： 5名
- ⑤対 象 者：80名
- ⑥事 業 費：¥11,591,495

## 5. 小規模多機能型居宅介護事業

- ①内 容：介護保険対象者に「通い」を中心として「泊まり」「訪問」を組み合わせたサービスを提供
- ②日 時：通年
- ③場 所：藤沢市域
- ④従事者人員：40名
- ⑤対 象 者：25名
- ⑥事 業 費：¥41,563,190

(4) 高齢者・障がい者等に対する居宅支援および施設サービス事業

1. 居宅支援サービス事業

- ①内 容：障がい者自立支援対象者への訪問介護サービスの提供
- ②日 時：通年
- ③場 所：藤沢市域
- ④従事者人員：70名
- ⑤対 象 者：60名
- ⑥事 業 費：¥17,201,613

2. 精神障がいグループホーム

- ①内 容：障がい者自立支援対象の精神障がい者へのグループホーム・ケアホームの提供
- ②日 時：通年
- ③場 所：藤沢市域
- ④従事者人員：4名
- ⑤対 象 者：6名
- ⑥事 業 費：¥5,791,875

3. 高齢者住宅

- ①内 容：高齢者に終の棲家としての住宅および生活支援サービスの提供
- ②日 時：通年
- ③場 所：藤沢市域
- ④従事者人員：30名
- ⑤対 象 者：21名
- ⑥事 業 費：¥43,753,019

(5) レストラン事業

1. レストラン事業

- ①内 容：福祉マンションで働くスタッフおよび近隣の方に開放するレストラン運営
- ②日 時：通年
- ③場 所：藤沢市域
- ④従事者人員：5名
- ⑤対 象 者：多数
- ⑥事 業 費：¥28,815,715

(6) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

1. 総合相談センター

- ①内 容：福祉・医療に関する相談業務
- ②日 時：通年
- ③場 所：藤沢市およびその近接地域
- ④従事者人員：10名
- ⑤対 象 者：多数



第4号議案 2011年度 事業予算

2011年度 活動予算書(特定非営利活動に係る事業)

2011年4月1日から2012年3月31日まで

科 目	金 額	(税込、単位：円)
I 経常収益		
1 入会金収入		
正会員入会金	20,000	
さわ入会金	12,000	
賛助会員入会金	30,000	62,000
2 会費収入		
賛助会費	45,000	
さわ会費	100,000	145,000
3 事業収入		
事業収入		314,034,308
4 補助金等収入		
民間助成金収入		300,000
5 雑収入		
雑収入		2,054,380
経常収益計		316,595,688
II 経常費用		
1 事業費		
(1) 給料手当等計	154,617,228	
人件費	154,617,228	
(2) その他経費		
食料費	12,600,000	
事業費	5,666,160	
燃料費	991,680	
消耗品費	2,000,000	
修繕費	1,350,000	
印刷費	1,639,200	
什器備品費	1,082,000	
水道光熱費	6,869,520	
賃借料	7,368,012	
保険料	262,000	
通修費	1,212,000	
研修費	280,000	
まちづくり対策費	500,000	
租税公課	849,027	
減価償却費	10,897,108	
法定福利費	14,598,245	
諸会費	44,000	
支払手数料	254,200	
雑費	2,300,300	
その他経費計	70,763,452	
事業費計		225,380,680
2 管理費		
(1) 人件費		
給料手当・賞与	40,839,820	
福利厚生費	4,210,150	
人件費計	45,049,970	
(2) その他経費		
会議費	938,800	
旅費	1,066,000	
燃料費	4,320	
通信費	571,200	
什器備品費	540,000	
消耗品費	600,000	
修繕費	300,000	
印刷費	432,000	
水道光熱費	816,480	
賃借料	3,283,728	
保険料	10,201,000	
諸謝金	200,000	
研修費	1,804,000	
租税公課	2,934,600	
法定福利費	2,911,754	
雑費	2,120,000	
予備費	2,000,000	
管理諸費	2,793,600	
支払手数料	300,000	
支払利息	10,069,000	
減価償却費	2,173,528	
その他経費計	46,060,010	
管理費計		91,109,980
経常費用計		316,490,660
当期経常増減額		105,028
当期正味財産増減額		105,028
前期繰越収支差額		156,591,597
次期繰越収支差額		156,696,625

注) 特定非営利活動促進法第28条第1項の収支予算書を活動予算書と呼んでいます

## 第5号議案

### 定款の改訂 別紙

## 第6号議案

### 借入金限度額について

二番館建設にかかわる費用としての借入金は、上限7億円とする。



## 提 案 者

理事長	鷺尾 公子
理 事	垣見 凌子
理 事	黒川 栄
理 事	小林純二郎
理 事	佐藤 律子
理 事	富田 信美
理 事	松岡 薫
理 事	山口 修三
理 事	吉村 さえ子
監 事	土屋 律子
監 事	藤澤 抱一



歳をとっても病気になっても

障がいがあっても

いつまでも自分らしく暮らせる街を創りたい

第7回（通算19回）通常総会議案書

発行日 2011年5月28日

発行者 NPO法人ぐるーぷ藤 理事会

住 所 藤沢市藤が岡1-4-2

電 話 0466-24-3100